

銀行ビジネスの変革を支える次世代基幹系システムアーキテクチャーの展開

戦略的な銀行ビジネスの変革に耐える基幹系システムの課題

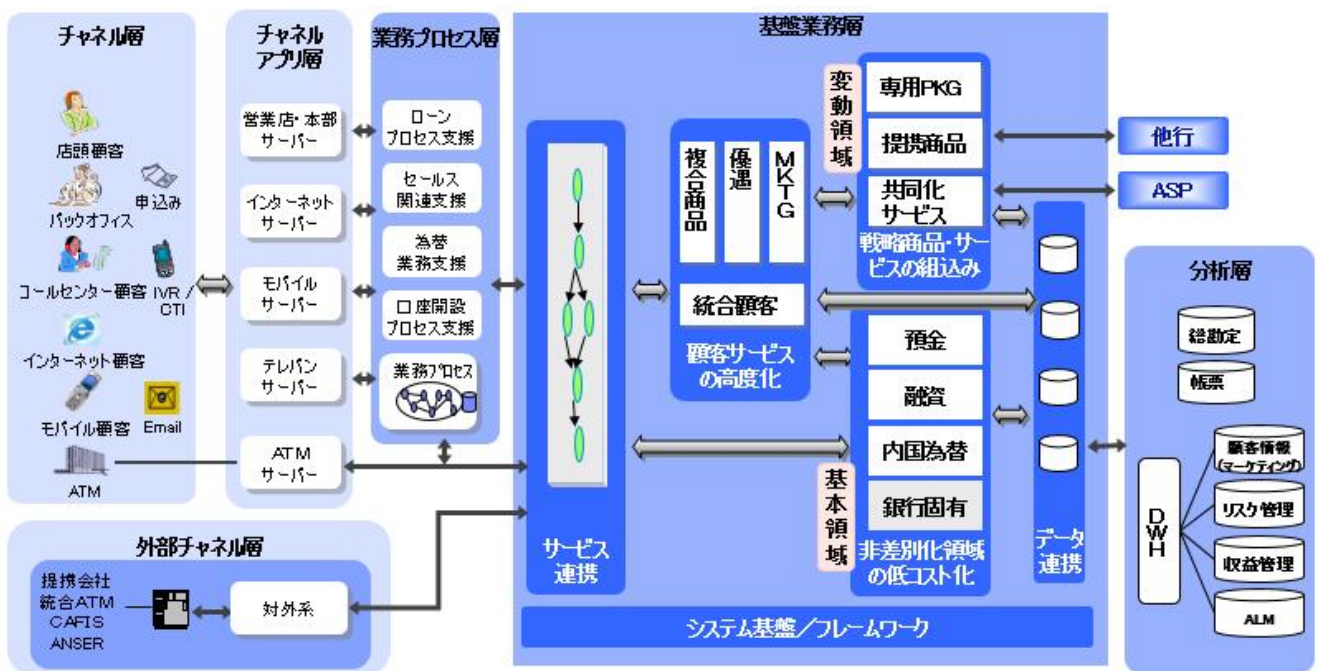
稼働から 20 年以上が経過した銀行の基幹系システムは、システム全体を俯瞰できる人材の不足、予期せぬ大震災や天候被害により重要性が高まっている災害対策、グローバルに拡大する金融機関の業務戦略への対応など、さまざまな課題に直面しています。一方で、これまでのような都度最適化を図る形で繰り返されてきた短期的なシステム改定では、コスト、スピードともに限界を迎えており、抜本的な解決策が必要となっています。

当社はこうした課題を解決するため次世代基幹系システムアーキテクチャー（下図）を定義し、金融機関の次期システムとして提案してきました。このアーキテクチャーは、システムの階層化、適切なコンポーネント化、再利用しやすい粒度でのサービス化を推進しています。次世代基幹系システムは大きく2つの領域に分かれ、今後も変動要素の少ない基本領域には現行の勘定系システムを活用し、変動要素の大きい部分に関しては新規のコンポーネントを構築して、基本領域と連携します。これにより、新たなビジネスニーズに対応する際にも基本領域への影響が少ないため、迅速かつ低コストでの対応が可能となります。

変動要素には、例えば従来のシステムでは開発に時間がかかっていた商品の開発や、顧客分析結果などを最大限に活用した顧客優遇サービスの提供などがあります。

なお、これら基本領域と変動領域を融合させるサービス連携ソリューションとして IBM 製品 MDF (IBM Message Delivery and Flow manager) を提供しています。

図：IBM 次世代基幹系システムアーキテクチャー



弊社では銀行システムをこのような階層に定義し、この階層構造をベースとした基幹業務層である「次世代基幹系システム」を提案してきています。また、基幹業務層は、従来の勘定系から引き継ぐ基本領域と今後の戦略分野である顧客サービスおよび戦略商品を扱う変動領域に類別します。

柔軟性の高い商品開発を支える融資・ローン業務パッケージの提供

現在の金融ビジネス界では、新たな収益源を模索する動きがありますが、金融機関が策をとりうる最も有望な領域の **1** つが融資・ローン業務です。金利の設定、他の商品との連携、返済の柔軟性や金利タイプの切り替えに対応する住宅ローンはもちろんのこと、法人向けには多様化した金利タイプやコミットメント管理、利息計算方式などに対応した融資のニーズなどもでてきています。

日本 **IBM** は融資・ローン領域のソリューションとして株式会社アーネスト・ビジネス・ソリューションの **eSCOFI**(次世代ローンパッケージ) を **IBM** のミドルウェアである **IBM TXSeries for Multiplatforms(CICS 互換)** および **DB2** の上で稼働させ、次世代基幹系システムを構成するコンポーネントの **1** つとして位置付けました。

eSCOFI はこれまで **IBM** が長年にわたって積み上げてきた基幹系システムの知見を集約したパッケージであり、複雑なバリエーションのあるこの業務領域全体をカバーできるよう設計されています。また、既存システムとは独立して機能させることができ、お客様が短期間にビジネスを立ち上げることをサポートするパッケージとなっています。

さらに、**IBM** のミドルウェア上で稼働させることで、システム全体について安定したサービスを提供できます。

今回は、ローン・融資業務の拡大ニーズのあるお客様に対するソリューションのご紹介ですが、今後、様々な業務パッケージを含め、次世代システムアーキテクチャーを構成するソリューションを拡大していく予定です。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号
© Copyright IBM Japan, Ltd.
All Rights Reserved

IBM、IBM ロゴ、ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

本記事中に記載の数値や固有名詞等は初掲載当時のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。